

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000286		
法人名	株式会社 あゆみ		
事業所名	あゆみ愛グループホーム		
所在地	兵庫県姫路市網干区浜田95-1		
自己評価作成日	平成24年11月9日	評価結果市町村受理日	平成25年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www1.ocn.ne.jp/~ayumiai/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自治会、学校、小売店、ボランティアの協力がすごく、イベントも安全に楽しく参加出来る様配慮して頂ける。また、外部から初めて来られるボランティア、来客の方より「職員と利用者の笑顔」「雰囲気がとても明るい」「住んでる方も働いている方も明るいいきいきしている」とお声を頂く事がよくあります。あくまでもグループホーム内は家庭であり、個人の意思が尊重され、したい事、出来る事を共に探し、共働出来ています。職員一同おしつけの介護をせず、利用者の気持ちを一番に考えた介護が出来ており、職員一人一人がどのようにすれば利用者にあった介護出来るかを考え自らの意思で勉強し、学ぼうとする姿勢が見受けられる。家族とも密な連絡をとり、常に事業所と家族が相談し合える状態にあります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設2年目とは言え、本人本位の視点に立ったサービス提供に努め、特に馴染みの人・地域との関係性継続の面での取り組みの点が顕著であることを評価したい。今後も地域との関係性継続を推し進めると共に地域包括支援センターとも連携して事業所の社会資源や今後も蓄積される介護サービスのノウハウを活用して「認知症について」の理解の地域への浸透を視野に入れた活動を期待したい。利用者一人ひとりの表情は穏やかでゆったりとされており、事業所内の雰囲気も明るく居心地の良さが窺える。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で「いつもニコニコあゆみ合い」という理念を作り、職員・利用者間では1日の生活を通して共同生活をしている。また、地域密着として認知症についての地域イベント等積極的に参加し、少しずつ地域の方とあゆみ合っているように思う。	事業所開設時に職員全員で地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げ、事業所内に掲示するとともにパンフレットにも掲載し関係者と共有を図っている。また管理者・職員は日々の介護サービス提供の中で折りに触れ実践への反映を確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	掃除当番や公園・溝掃除等で共に活動に参加。学校、自治会イベント等積極的に参加。また事業所内には地域ボランティアによる紙芝居、音楽等に参加、事業所内イベントも自治会の方、地元の方にも参加頂いている。	開設後2年目ながら、地域社会との関係性構築への取り組み努力と成果には著しいものが窺える。自治会に加入し廃品回収・粗材ゴミ当番・清掃活動にも自主的に参加、幼稚園の敬老会行事・小学校運動会への参加、地元ボランティアの受入・協働等の取り組みがあり、来年はトライやる・ウィークの受け入れも視野に入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と共に協力して、在宅で認知症介護をされている家族との話合に参加。子供との関わりが利用者に大きく変化があったので、地元中学に相談し、トライアルウィーク等通じて認知症の理解を呼び掛けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、写真と資料で実際の活動が分かり易いと意見を頂いているが、実際の職員の教育面や地域からの要望に対しての対応はすぐには実施出来ていない。	運営推進会議は2か月に1回定期的で開催され、利用者・家族・地域住民代表・民生委員・地域包括支援センター職員・知見者等多様なメンバーが出席し、報告に止まらず意見交換・相談等が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地元ボランティアに週1度来て頂き、顔見知りの関係作り、また地域行事の際は共に参加して頂いている。	市町担当者の所へは認定更新時や事故発生時の報告説明時に伺っている。また2か月に1回開催される事業者連絡会の機会に情報提供を受けたり、地域包括支援センターとの連携に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外の玄関の施錠は行っていないが、言葉での行動抑制は見られる事がある。出来る限り自由に過ごして頂くよう、全職員意識は出来ていると思われる。	身体拘束廃止マニュアルが整備され、身体拘束廃止委員会が設置されている。職員会議の中で身体拘束をしないケアについて研修されているが、実施記録として確認できなかった。玄関の施錠については、夜間のみで昼間は行われていない。	身体拘束の内容とその弊害について全職員に定期的に研修を実施し、実施記録を残すことを望む。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意識的に職員同士気を付けているが、マニュアルはあるが、学習として現状行われていない。言葉遣い(声かけ)に関しては、職員同士注意しあって防止に努めている。又利用者の心身の変化にも注意を払っている。	日々のケア提供の中で声掛け・言葉づかいに気を配り、職員同士による相互注意を行うことで虐待防止に努めている。開設当初にマニュアルを整備し研修は実施されていたが、現在、研修は実施されていない。	姫路市高齢者虐待防止マニュアルを基に研修会等を定期的に実施して、改めて虐待の定義について職員全員の理解を深め、職員の意識向上を図ってほしい。また研修を実施した時は実施記録を残し、不参加者への周知のため伝達研修を徹底してほしい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と一定の研修を受講した者は権利擁護に関して学習し、対象利用者について話しをする事はあるが、介護職員間での勉強は行われておらず、理解出来ている者も少ない。	管理者と一部の職員は成年後見制度についての知識と理解はあるも、職員全員が制度の要点についての知識を持って利用者家族等に情報提供ができるまでには至っていない。	地域包括支援センターに相談して講師を依頼し日常生活自立支援事業及び成年後見制度について研修する機会を持つことを望む。また事業所内にパンフレットを備えて利用者家族等へ情報提供を図ることを期待したい。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂によるサービス、料金が変わる事があればその都度書面を作成、説明し了承の上同意を得ている。また、新たな加算についても加算内容、変更されるサービスについて説明し了承の上同意して頂いている。	契約に際しては、契約書・重要事項説明書等を時間をかけて丁寧に説明し、一旦関係書類を持ち帰っていただいて理解・納得の上で後日契約を結んでいる。改定時・料金変更時においても、書類作成の上で丁寧に説明し、同意をいただくようにしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表で必ず1家族以上参加頂き、意見を頂いている。家族会では家族間で意見を言って頂く場を設けている。また、面会時に直接意見・要望を頂き、反映に努めている。	面会時に話しを伺ったり、運営推進会議に家族が交代で出席して意見を反映する取り組みが行われている。また、4月より家族会発足に取組み、8月に第1回家族会開催、12月開催時には会長・副会長が選出された。誕生会を行った後に開催する方向で進められており、今後に期待したい。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体会議を開き、意見要望を聞ける様、場を設けている。会議不参加者は無記名で意見を書き会議で話し合えるようにしている。また、現場副主任より意見が直接管理者、代表者に通るようにしている。	月1回開催される職員全体会議に出来るだけ多くの出席を呼びかけ、現場職員の意見・提案を聴き取り、運営に反映するように努めている。会議テーマは提案者が議題用紙に事前に書き込める仕組みになっている。日々の勤務の中でも管理者は個別に話す機会を持ち、提案・意見を聴き取るようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金規定、スキルアップの本等休憩室に設置し、いつでも見られる様にしている。また、職場環境を始め意見・訴えに関し取締役以上で話し合う様努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議を利用し、内部研修を行っている。外部研修の情報の提供、研修の報告を全職員確認出来る様にしている。また、職員間でのOJTにも取り組まれている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者自体連絡会、研修を通して外部との情報交換等行っている。また、外部からの研修受け入れを行い、質の向上に取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の聞き取りにて本人の希望等伺い、アセスメントシートにて職員間での共有を心掛けている。また、普段の生活の中で、常に出来る事したい事に気付ける様心掛けている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時の近況報告、要望等の確認はもちろん、日頃から密な連絡を取り、利用者の状況に応じて共に相談出来る様心掛けている。月に1度写真付きの手紙に近況を説明して確認して頂くようにしている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療からの助言からスタッフ間での連携により必要に応じた支援は行えているが、外部サービスの利用に関しては行えていない。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同する中で得意不得意をみつけ、出来る所はして頂き、出来ない所は共にしたりしている。職員全員馴染みの関係は徐々に作れてきているが、暮らしを共にすると言う意識は持っている職員もいるが、全員ではない。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診は家族で行ける所は行って頂き、同行希望の場合は同行して、わずかな受診でも共に過ごす時間を持って頂く。また、普段から利用者の状態等共に相談、意向を伺える様心掛けている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の行事へ参加し、声をかけて頂いたり、買物も地元のスーパーには毎日出かける様心掛けている。また、友人・知人の面会時話し出来る環境を整えるようにしている。誕生日にはしたい事行きたい所へ行ける様心掛けている。	同一法人運営の隣接デイサービスの利用者や地域の馴染みの知人が会いに来たり、教え子が訪ねて来たりすることがある。また年賀状・絵手紙を書いたり、近くのスーパーに買物に行ったり、昔から馴染みの富島神社・魚吹八幡宮に初詣に行くなどして関係継続の支援に努めている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が部屋に集まって話をしたり、みんなで共有出来るレク等を通して利用者間の関わりを深めている。利用者間の会話に職員も加わり孤立の無い様に自然と出来ている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後施設に来られたり、連絡がある時経過、現状を話をする。自分もこのような所に入りたいと感謝して頂く事がある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中から発される言葉にも注意するようにしている。またユニット会議の中で各職員の目線から得た情報の共有、介護計画作成にあたっている。	これまでに把握したアセスメント情報を踏まえて、日々の生活の中での言動を見守り、何気なく発した言葉などを見逃さないようにして本人の本音を汲み取るように努めている。思いや意向の把握が困難な場合は、家族等に相談し推し測るようにしている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のサマリーを確認したり、利用者との会話の中で生活環境等把握に努めている。また、家族が来られた際に気になる点以前はどうしてたかを伺ったりする事によって深く知る様努めている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、個々の提供記録、夜間ノートの活用で利用者の状態変化等対応出来ている。また、2回の申し送り、リーダーによる申し送りで全職員情報の共有が出来ている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取り、週1回のカンファレンスにて職員からそれぞれが得た情報を出し合い計画作成担当者へ報告、介護計画の変更の際は家族に説明の上現状に即した計画作成が行われている。	利用者の状況と意向を踏まえ、ユニット毎の全職員による担当者会議を経て計画を作成し利用者家族等への説明・同意のもと実施している。また毎週1回カンファレンスを開き、毎月1回モニタリング結果をまとめている。変化の見える時は柔軟に対応し、現状に即した計画を作成して利用者家族等の同意のもと実施している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週1回のカンファレンス、月1回の会議にてケアの実践結果報告等行い情報の共有に努めている。気づき等申し送りノートを活用し、毎朝毎夕の申し送りにて共有している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状を把握して、身体状況等に応じた身体介護、生活援助のサービス提供は行われている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館利用、天気の良い日は公園へ散歩に行く。地域行事の際には自治会等協力のもと、安全に楽しく参加出来ている。また週3回魚屋がホームの前で魚屋を開き利用者を選んで買って頂いたりしている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族と話し合い、希望の医療機関を受診出来ている。また、家族の状況等把握して共に受診したりと時々に応じた対応が出来ている。	利用者家族等の希望を尊重したかかりつけ医の選択受診が行われている。通院介助については利用者と家族等のつながりの関係を大切にするという視点から基本的には家族が行うが、止むを得ない場合は職員が行う。受診結果の把握についても事業所は家族等と共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内では看護師・准看護師を中心に職員全員が日常の利用者の状態の把握に努めており、受診時に医師に相談し助言を頂いている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院を訪れソーシャルワーカー、看護師と情報を共有出来ており、退院後に関して緊急時の受け入れ、対処方法等ソーシャルワーカー、看護師との連携を行っている。	入院時、事業所は介護サマリーを速やかに医療機関に提供し、入院中は医療機関・家族等とも連携して回復状況を把握し早期退院に努めている。退院時は家族等と共に退院時カンファレンスに出席すると共に退院時サマリーの入手も行っている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	10月より医療連携加算の算定を行い、現状出来る事を十分説明理解して頂き、重度化した場合には主治医、看護師、家族、計画作成担当者、管理者と密に連絡をとり都度出来る事と家族・本人の意向を話をさせて頂く旨理解して頂いている。	事業所は「重度化した場合における(看取り)指針」を定め、医療連携体制を敷いている。事業所全体でも方針は共有されているが、利用者家族等には入居時に方針を説明し同意書も交わしている。これまでに事業所における看取り事例が1件ある。但し、全職員に対し看取りに関する研修は実施されていない。	全職員のレベルアップと日々の生活の中での不安解消のために看取り介護に関する研修の実施を望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2ヶ月に1度心肺蘇生法やAEDの使用方法などの訓練を行っていたが、今年に入ってから出来ておらず当月より実行する計画をたてている。急変時のマニュアルは常に受付に設置しているが、不安を持っている職員も多い。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に近隣職員、ボランティアへの協力要請は行えているが、訓練は行えていない。	防災マニュアルを整備し、避難訓練を始めとした防災訓練を年1回消防署を交えて実施すると共に事業所独自でも2か月に1回実施している。運営推進会議で地域に協力の呼びかけも行われている。夜間想定避難訓練が昨年5月以降途絶えており、火災以外の他災害(水害等)を想定した防災訓練が実施されていない。	夜間想定避難訓練についてはシュミレーションによる訓練も1方法である。津波・ゲリラ豪雨などの災害発生を視野に入れた災害対策を検討し、シュミレーションなどの防災訓練の実施を望みたい。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人人生の先輩として尊敬の気持ち忘れず接している。言葉使いや対応に不適切な点があれば職員同士で注意しあえている。	全職員に対して入職時に研修を実施している。日々のケア提供時の不適切な対応については、その場で注意するようにされている。利用者一人ひとりのプライバシーを守ることに配慮し、年長者としてのプライドを大切にされた礼儀・声掛けを行いながら支援している様子が窺える。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話しを傾聴し、自己決定して頂けるよう支援している。自己決定が難しくなってきた利用者に対し職員の感情が入っている所があるので、注意するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り1人1人のペースで希望を大切にしよう努めているが、現状入浴や外出に関して職員側の都合になっていることがある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床されてから、顔を洗われたり、髪を梳かれたりとその人のペースで支援は行っている。日中着替え等個々の希望に応じた支援を行っている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買物に行ったり、週に3回魚屋が来て利用者が選んで買ったりし、準備、調理、後片付けも出来る範囲で共に行っている。また食欲、体調、希望に合わせて主食を変更したりと臨機応変に支援が行われている。	食事の準備や、買い物などできることを一緒にしながら行っている。すし職人が来所し魚を仕入れ、さばくところから握って食すなど、食事を楽しむ工夫が行われている。	職員と一緒に準備、配膳し、作った料理を利用者と共に会話を交えながら食べる一連の流れを、一日の大きなイベントと捉え、利用者主体の生活行動への支援が望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取はこまめに行われている。食事摂取量も記録し、各利用者に応じて摂取出来るよう心掛けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に対して介助、準備、声かけ等利用者に応じた支援を行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動等から声かけや誘導を行い、個々がトイレにて排泄出来るよう支援し、状態に合わせて今出来る事を持続出来る様努めている。	利用者がトイレで自立排泄することを継続できるように支援が行われている。排泄パターンを活かしたり、一人ひとりの行動観察などから、誘導、声掛けを行い、利用者の半数が布パンツ使用継続である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫は出来ているが、運動に関しては歩行、体操等取り入れているが個々に対して十分行えていない。家族、利用者とは相談し主治医にも、助言や服薬指示を頂く。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家族の希望の基、基本的な曜日は決めているが、本人のその日の体調、気分によって臨機応変に対応し、本人の希望を出来る限り尊重出来ている。	月曜日から土曜日の間で一人ひとりの希望を尊重しながら入浴支援が行われている。バスクリンを使用したり、ゆず湯やバラ湯など季節の香りを楽しむ工夫がなされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて声かけ、誘導を行っている。また昼夜逆転がなるべくない様、(体調にもよるが)声かけ、レクへの参加等実施出来ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無い様、利用者毎の薬袋を設置、服薬の確認を徹底出来ているが、副作用等に関して全員また、受診時に普段の体調変化等主治医に報告が出来ている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	したいと言う利用者の気持ちを大切に出来る事は出来るだけして頂くよう支援している。利用者毎に楽しみ趣味はこれからもみつめて頂ける様、様々なレク等を通して支援している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩等希望にそって行う様心掛けるが、常に行っているわけではない。地域の行事等話しをして興味を示されたらボランティア・自治会の協力を得て出かける事が出来る。誕生月には本人の希望を聞けるように心掛けている。	散歩、買い物、外食、季節の花見や地域行事など多種にわたって、地域ボランティアの協力を得ながら利用者の希望に沿うように外出支援を行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物外出時は利用者自身で支払いは行っているが、本人・家族との話し合いにて普段は事業所で預かっている。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置いつでも電話をかける事が可能な環境は用意出来ている。絵手紙等作成し、家族へ送れる様支援している。また海外遠方に住まわれている場合は代わりにメールで連絡している。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の温度、湿度、明るさに気を付けます。また共用スペースは利用者と共に掃除を行い、季節の飾り物、花を季節感を感じて頂ける様支援している。	南向きで採光よく、明るい、環境整備が整っており、空気清浄器、加湿機能付きが設置され、湿度、温度管理が徹底している。季節の花やクリスマスの飾りつけ等で季節感を感じていただけるよう努力している。居間の中に畳の部屋で掘りごたつが置かれ、居心地の良い空間づくりに工夫されている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士話をしており、中にはお互いの部屋を行き来される方もおられます。また、自分のペースで居室に戻られたり部屋から出てこられたり出来ている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族、利用者で使われていた物を持ってきていただいたり、自由にレイアウトして頂いています。居室掃除は利用者と共に行うよう支援しています。	畳を敷いたり、こたつを置いたり、カーペットを敷き詰めたり等、一人ひとりの生活習慣に合わせた自由なレイアウト支援が行われている。家族写真、ぬいぐるみなど飾られ、居心地良く過ごせるような工夫がなされている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活で出来る事はして頂くよう支援しているが、利用者の体調や機能低下により出来ない事も増えてきているので、安全を意識して支援する様心掛けている。		